

| 達成度（評価） |             |
|---------|-------------|
| A       | 十分達成できている   |
| B       | おおむね達成できている |
| C       | やや不十分である    |
| D       | 不十分である      |

|               |   |
|---------------|---|
| 学校名           | 小城市立桜岡小学校   |
| 1 前年度 評価結果の概要 | 全体指標の項目1「自分にはよいところがあると思う」は79.3%、項目2「先生はあなたのよいところをほめてくれる」は80.9%であった。目標達成には至らなかったものの、昨年度より伸びを見せた。また、重点目標①②③については、特に重点②「桜岡スタイル」での授業実践、重点③道徳科や人権教育の充実、悩みを抱える子への組織的対応についての教職員の評価が大きく伸びており、個々の職員が重点目標を意識した共通実践ができたと評価している。保護者評価においても、重点②志を高める教育、重点③道徳教育、教育相談についての伸びは顕著である。今後は「自己有用感」を高める取組をより深化・徹底を図ること、さらに、重点①効率的な業務遂行のため、より一層の業務改善が課題である。 |

|          |  |
|----------|--|
| 2 学校教育目標 | 自らを友達を大切にし、未来に向けて花開こうとする桜つ子の育成<br>― 日々の積み重ねを大切に作る学校づくり ― |
|----------|--|

|            |   |
|------------|---|
| 3 本年度の重点目標 | 「いのち・心はひとつ」「ひとつずつの積み重ね」を胸に、一人一人の教職員が、学校教育目標の実現に向けての意識を高く持ち、子供の「自己有用感」を高める取組を推進する。<br>☆全体指標「自分には、よいところがあると思う・・・80%以上、先生はあなたのよいところをほめてくれる・・・85%以上」<br>《教育活動推進のための3つの重点》①教職員の協働意識・体制の向上 ②自己実現を図るための「分かる授業」、「生徒指導の三機能」の実践 ③子どもの困り感に寄り添う支援、やさしい子を育む指導の充実 |
|------------|---|

| 4 重点取組内容・成果指標 | 中間評価 | 5 最終評価 |  |
|---------------|------|--------|--|
|---------------|------|--------|--|

| 重点取組               | 評価項目 | 取組内容   | 成果指標 (数値目標)  | 具体的取組  | 中間評価     |  | 最終評価     |  | 学校関係者評価 |  | 主な担当者  |
|--------------------|------|--|--|--|----------|--|----------|--|---------|--|--|
|                    |      |  |  |  | 進捗度 (評価) | 進捗状況と見通し   | 達成度 (評価) | 実施結果   | 評価      | 意見や提言  |  |
| ●学力の向上             |      | ○校内研究を軸とした主体的・対話的で深い学びの展開                                      | ○「桜岡スタイルでの授業の実践や、児童について力を常にふり返り授業改善に努めた。」と回答した教職員80%以上<br>→学校評価教職員アンケート                  | ○全ての授業で、「やり方を決めよう」「かんがえよう」「たかめ合おう」の合い言葉にした「桜岡スタイル」での授業の実践に取り組む。<br>○一人一台端末を、つきたい力を考え、どの段階でどのように活用するか教師が意図をもって使用する。<br>○一人一台端末の使用方を職員間で共有したり、ミニ研修会を行ったり、一人一台端末を有効に利用する。 | B        | ・桜岡スタイルでの授業実践を提案し、学校訪問や授業研究会の指導案を書く際にも共有できた。<br>・今年度の第1回目の全体研究会で、ICT機器活用場面を設定することを共有した。一人一台端末を、ねらいをはっきりさせ、どの段階でどのような方法で活用するかを明確にするよう共通理解を図った。<br>・二学期に全体授業研究を行ったり、ICTスキル部でミニ研修会を行ったりすることで、教員が一人一台端末の活用方法を学ぶことができた。                               | A        | ・12月に実施した職員アンケート結果から「桜岡スタイルでの授業実践、授業改善に努めた」と答えた教員が95%おり、研究内容を共有しながら確実に進めることができた。<br>・校内研究は今年度3年次を終え、ICT機器活用場面を効果的に設定しながら、授業づくりを進めることができた。一人一台端末についても、ねらいをはっきりさせ、児童の意欲や思考を引き出し、教師が意図を持って活用できた。<br>・ミニ研修会の中で、多くの活用方法が紹介され、教員の学ぶ機会が増えたことも一人一台端末の有効利用につながった。 | A       | ・1人1台端末の活用に努められている。<br>・桜岡スタイルを続けてほしい。<br>・1人1台端末の有効利用ができている。  | ※かしい子プロジェクト<br>・研究主任                             |
|                    |      | ○児童の基本的な学習習慣の育成  | ○「立腰」と「か・つ・お」を共に守れた」と回答した児童80%以上<br>○学習の終わりに、『学習の振り返りができている』と回答した児童70%以上<br>→学校評価児童アンケート | ○学習規律定着のために「立腰」を合い言葉に学習の構えをつくる。<br>○「か・つ・お」を合言葉に、学習の準備を行い、速やかに学習に取りかかることができるようにする。<br>○学習の終わりに、『ふりかえ〜くん』を用いて振り返りの視点を示し、学んだことを自分の言葉で振り返り、表現できる児童の育成を目指す。                | B        | ・各学級で授業の初めに「立腰」を合い言葉に姿勢を正すことで、学習に臨む姿勢を意識付けすることができている。<br>・「か・つ・お」を意識して休み時間を過ごす子どもが増えているが、十分ではない。継続した指導が必要である。<br>・「ふりかえ〜くん」の使用については各学級の裁量に任せている。使用の有無に拘らず、振り返りの視点を示して1時間の授業や単元の終末に、学習の振り返りを行うことで、学んだことを振り返り、自分の言葉で表現できる児童が増えている。引き続き全職員で取り組んでいく。 | B        | ・学校評価アンケート結果から、「立腰」「か・つ・お」ができていると答えた児童は89%となっており、目標を達成できた。<br>・振り返りの方法は、授業毎や単元毎に各学級の裁量によって行った。振り返ることができると答えた児童は、78%と目標達成できた。今後も、振り返りの視点を明確にして、学んだことを言葉で表現できる児童の育成を目指していきたい。  | B       | ・家庭学習時間とインターネット・テレビ視聴時間のアンケートなどの実施をし、家庭学習の状況把握もしている。<br>・復習の大切さを感じている。   | ※かしい子プロジェクト                                      |
| ●心の教育              |      | ●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動 | ○「自分にはよいところがある」と答えることのできる児童80%以上。  | ○「心を考える日」に人権教室を3回、人権集会1回を実施することにより、人権週間の充実を図る。<br>○道徳教育やいのちの学習を通して、自他の生命を尊重する心を育てる。  | B        | ・人権学習や命の学習、及び平和学習を、単発学習でなく、継続して全学年で取り組み、人権意識の向上を図ることができている。<br>・児童の感想を掲示し、全校の学びを共有したり振り返りできる環境づくりにも努めた。  | A        | ・年3回の人権教室や年2回のいのちの学習、人権週間に合わせた、講師招聘による人権集会や全校人権講話等を年間計画に沿って取り組むことができた。<br>・「自分にはよいところがある」と答えた児童は、目標の80%には至らなかった。自己肯定感を高めるための声かけを引き続き行う必要がある。<br>・今後も学年に応じた絵本の読みかせや人権学習を通じて、いのちや人権について考える機会を設定し、自己肯定感の向上に努めていく。   | A       | ・十分に人権教室、人権集会の開催がなされている。<br>・人権は大切なことであると思われるので、頑張ってもらいたい。   | ※やさしい子プロジェクト<br>・人権、同和教育担当<br>・道徳教育              |
|                    |      | ●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実  | ○いじめ防止等(いじめの定義、いじめの防止等)のための取組、事業対処等)について組織的対応ができていると回答した教員90%以上                          | ○いじめの認知・認知の組織的対応マニュアルの共通理解を図る。<br>○いじめの対応についての研修・会議を年間に2回以上行う。   | B        | ・いじめの対応についての研修を夏季休業中に実施した。その際にもいじめ問題の対応についての研修を行った。今後もいじめ問題の研修の計画をしている。<br>・児童や保護者へのアンケートをもとに、いじめの早期発見、早期対応に心がけている。  | A        | ・いじめ対応についての研修を計画通り実施児童や保護者への対応について研修できた。<br>・児童や保護者からアンケートで寄せられた意見に対し、児童に聞き取りをし、解決を図ったり、生活の中で起こった事案に対しては、迅速に対応することができた。保護者からの評価も95%を上回った。  | A       | ・対応について、保護者の評価が上がったのは、先生方の対応がよかつたとうれしく思います。<br>・いじめの認知件数も減少し、大きな問題が起きていない。事後の解決も丁寧に行われている。また、再発防止もなされている。<br>・いじめも昔と変わっているので、先生もたいへんと思う。<br>・未然防止が大切である。 | ※たくましい子プロジェクト<br>・生活指導担当                         |
|                    |      | ○児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動                      | ●「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童生徒85%以上<br>●「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童生徒85%以上      | ○「生徒指導の三機能」を意識した、決めさせ、考えさせ、認め合う授業・活動の実践<br>○学級活動等の時間の中で、「出番」「役割」があり、「承認」される授業・活動を創造し、実践を積み重ねる。<br>○様々な活動に対する目標や振り返りをキャリアパスポートを活用して行う。                                  | B        | ・「桜岡スタイル」のや・か・た(やり方を決める・考える・高め合う)の流れを意識して日頃の授業に取り組むことでも、決めさせ・考えさせ・認め合う活動につながっている。係活動などの学級活動においても、「出番・役割・承認」につながる活動を実践していく。<br>・学期の始めと終わりや行事の前後などでは、目標設定と振り返りを行った。子ども自身が達成感や自己有用感を感じられるように、今後もキャリアパスポートを活用していく。                                   | A        | ・12月に実施したアンケートでは、「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」について肯定的な回答をした児童84%、「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童86%という結果であった。目標値と同程度の結果であったが、前年度と比較すると1〜2%の上昇が見られた。児童を承認できる場を教師が意図的に仕組んだことが結果として表れたと考える。<br>・学期ごと目標達成とつながりかえりを実施したことで、スモールステップで自身の成長を感じることができた。              | A       | ・目標値と同程度の結果を達成できている。<br>・たいへん喜ばしいことである。  | ※かしい子プロジェクト<br>・児童会活動担当<br>・委員会活動担当              |
| ●健康・体づくり           |      | ●運動習慣の改善や定着化   | ○授業以外で運動やスポーツを行う時間的1週間で420分以上の児童生徒65%以上  | ○共遊(学級・学年間交流)の時間を計画的に実施し、外で遊ぶ楽しさを実感させる。<br>○自力登下校や休み時間に遊ぶことを促すような声をかけ、体を動かす習慣化を意識させる。  | B        | ・1学期は、遠足・わくわくタイムと異学年での共遊の時間を4回実施できた。また、2学期には運動委員会での応援などたわわりでの活動を実施できている。今後も計画に沿って行っていく。<br>・自力登校や外遊びを促すことで体づくりや体力向上を図ることを目的とした「Let's運動・外遊び週間」を、11月に設定している。   | A        | ・年間を通して、わくわくタイムや各学級での共遊の実施ができた。また、2学期には運動委員会、外遊びを奨励する取り組みを行った。<br>・学校評価アンケートから「授業以外で運動やスポーツを行う時間が1週間で420分以上の児童生徒65%以上」が70%を上回っていた。   | A       | ・運動の楽しさを十分に伝えることができているので、その結果が出ている。<br>・遊びの大切さを感じている。  | ※たくましい子プロジェクト<br>・体育主任<br>※やさしい子プロジェクト<br>・異学年交流 |
| ●業務改善・教職員の働き方改革の推進 |      | ●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減  | ●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。  | ・毎週金曜日を定時退勤日とする。<br>・年間において月の平均時間外在校等時間45時間以内を遵守する。<br>・全職員で業務改善策を検討し、ポトムアップ方式での取り組みを推進していく。   | B        | ・毎週金曜日を定時退勤日とし17:30退勤を目標として取り組んでいる。<br>・6ヶ月を経過し月平均時間外在校等時間45時間以内を達成できている。引き続き取り組みを進めていく。<br>・職員の見解をもとにした校内安全衛生委員会を開催し、業務改善への取組について共通理解ができた。  | B        | ・職員一人あたりの月平均超過勤務時間は、前年度に比べ4.7時間減少した。アンケートでは、約80%の職員が取組について達成できたこと回答している。しかし、市の値と比べると超過勤務時間がまだ2時間多い状況である。引き続き取組を進めていくと共に、更なる業務の見直し等、職員からも意見を集約しながら進めていきたい。  | B       | ・熱心な先生方に指導するのは困難と思われるが、時代の流れかもしれない。  | ・教頭<br>※校内労働安全衛生委員会(多忙化対策委員会)                    |

| (2)本年度重点的に取り組む独自評価項目 |      |                              |                                  |   |          |  |          |  |         |  |                                 |
|----------------------|------|------------------------------|----------------------------------|---|----------|--|----------|--|---------|--|---------------------------------|
| 重点取組                 | 評価項目 | 重点取組内容                       | 成果指標 (数値目標)                      | 具体的取組   | 中間評価     |  | 最終評価     |  | 学校関係者評価 |  | 主な担当者                           |
|                      |      |                              |                                  |   | 進捗度 (評価) | 進捗状況と見通し   | 達成度 (評価) | 実施結果   | 評価      | 意見や提言  |                                 |
| ○特別支援教育の充実           |      | ○特別支援教育に対する教職員の知識・理解の更新、向上   | ○見守りたい子の情報共有を児童の支援に生かされた教員が90%以上 | ○特別支援教育の研修を講師を招聘して行い、教員の専門性を高める。<br>○特別支援学級を学年グループに配置し、学年の連携を図る。<br>○年度初めに特別支援教室の環境を整える。校内支援委員会を通して、多様な学びの場を提供し、個に応じた支援をする。                 | B        | ・講師を招聘して、「インクルーシブ教育」及びICTを活用した国語科の授業づくりの研修を行い、全体で学び合い、教員の専門性を高めるようしている。また、「見守りたい子」の情報共有を定期的に行い、児童理解につなげている。<br>・各学年の支援学級担任が、交流学級で人権教室を行ったり、支援をしたりするなど連携を図るようになっている。<br>・児童の困り感や保護者からの相談において、担任が特曹Coや管理職を通して、多様な学びの場を保障する努力をしている。 | A        | ・講師招聘の研修では、全体で学び合い、教員の特別支援教育についての授業づくりやインクルーシブ教育についての知識を向上させることにつながった。<br>・年3回の拡大支援委員会では、児童理解や適切な支援のために、特別支援グループで資料作成し、各学年に届け、全体共有し、児童支援に生かすことにつながった。見守りたい子の情報共有を児童の支援に生かされた教員は、97%であった。<br>・児童の困り感や保護者からの相談において、巡回相談と検査の手配、通級教室や支援学級の授業のお試し体験などを実施し、多様な学びの場につながるための努力をした。多様な学びの場を保障できたこと回答した教員は80%であった。 | A       | ・研修を支援に生かされたこと回答した教員が97%という数字を出している。<br>・自分の子どもの発達障害を認めない親がまだいると思う。                      | ※やさしい子プロジェクト<br>・特別支援教育コーディネーター |
|                      |      | ○悩みを抱える児童の困り感を共有し、対応できる体制の構築 | ○「心配なことや困っていることがある」と回答した児童が70%以下 | ○認知した児童の状況について管理職や教育相談担当、担任等と情報共有を行う体制を整備、構築する。<br>・「すっきりここにアンケートの実施(年3回)」<br>・「見守りたい子」の共有<br>・SC、SSW、SSP、支援センター等との連携<br>・困り感を持つ児童が過ごす部屋の設置 | B        | ・毎月の生活指導会で「見守りたい子」を情報共有し、全職員で支援や対応の方法を考え、児童理解を深めることができた。<br>・SCやSSW、小城市子ども支援センターなどの外部機関と密に連携を行い、多方面から個に応じた相談体制作りを行うことができたため、2学期以降も引き続き、学校組織として取り組んでいく。<br>・登校しふりの児童や困り感を持つ児童の対応に教育相談室を活用した。                                      | A        | ・「心配なことや困っていることがある」と答えた児童が60%を下回る学年が多くなると言えるが、「すっきりここに」アンケートを実施し、気になる児童には聞き取りをしながら一人一人の心配事や困っていることに対応することができた。<br>・「見守りたい子」の情報共有を図った結果、学校組織として外部機関との連携をとりながら迅速に対応することができた。<br>・登校しふりの児童や困り感を持つ児童の対応に教育相談室を年間通して活用した。   | A       | ・学校に来れない子どもさんは心配ですが、無理の無いよう指導をお願いします。<br>・すっきりここにアンケートを年3回実施し、対応ができている。外部機関との連携が十分にれている。 | ※やさしい子プロジェクト<br>・教育相談担当         |

|                              |   |
|------------------------------|---|
| ●・・・県共通 ○・・・学校独自 ◎・・・志を高める教育 |   |
| 5 総合評価・次年度への展望               | 全体指標「自分には、よいところがあると思う」と回答した児童が76%と目標値には至らなかったが、「先生はあなたのよいところをほめてくれる」については、昨年度より伸びている。引き続き、児童の自己肯定感や自己有用感を高めるような取組を実施していく。教育活動推進のための3つの重点①については、どの項目についても教職員同士の共通理解・共通実践がなされ、成果を上げている。②については、「桜岡スタイルでの授業実践等に努めた」と答えた教員が85%であり、「授業がわかる」と答えた児童が94%であったので、引き続き取組を続けていく。また、生徒指導についても、保護者の評価が90%を超えている。③についても、保護者の評価が90%を超えており、自信をもって取組を継続していく。今後は、どちらも数値が伸びてきているが、学習の振り返りをさらに充実させていくことや教職員の業務改善について職員から意見を集約しながら、できることから進めていく。 |